

第3回今後の共助による地域づくりのあり方検討会資料

2017.11.9

三菱地所(株) 開発推進部専任部長 エリアマネジメント室
(一社)エコッツェリア協会 専務理事

村上 孝憲

(話題1) 大丸有地区のまちづくり

・防災における「共助」の考え方

(話題2) 三菱地所グループの社会貢献活動

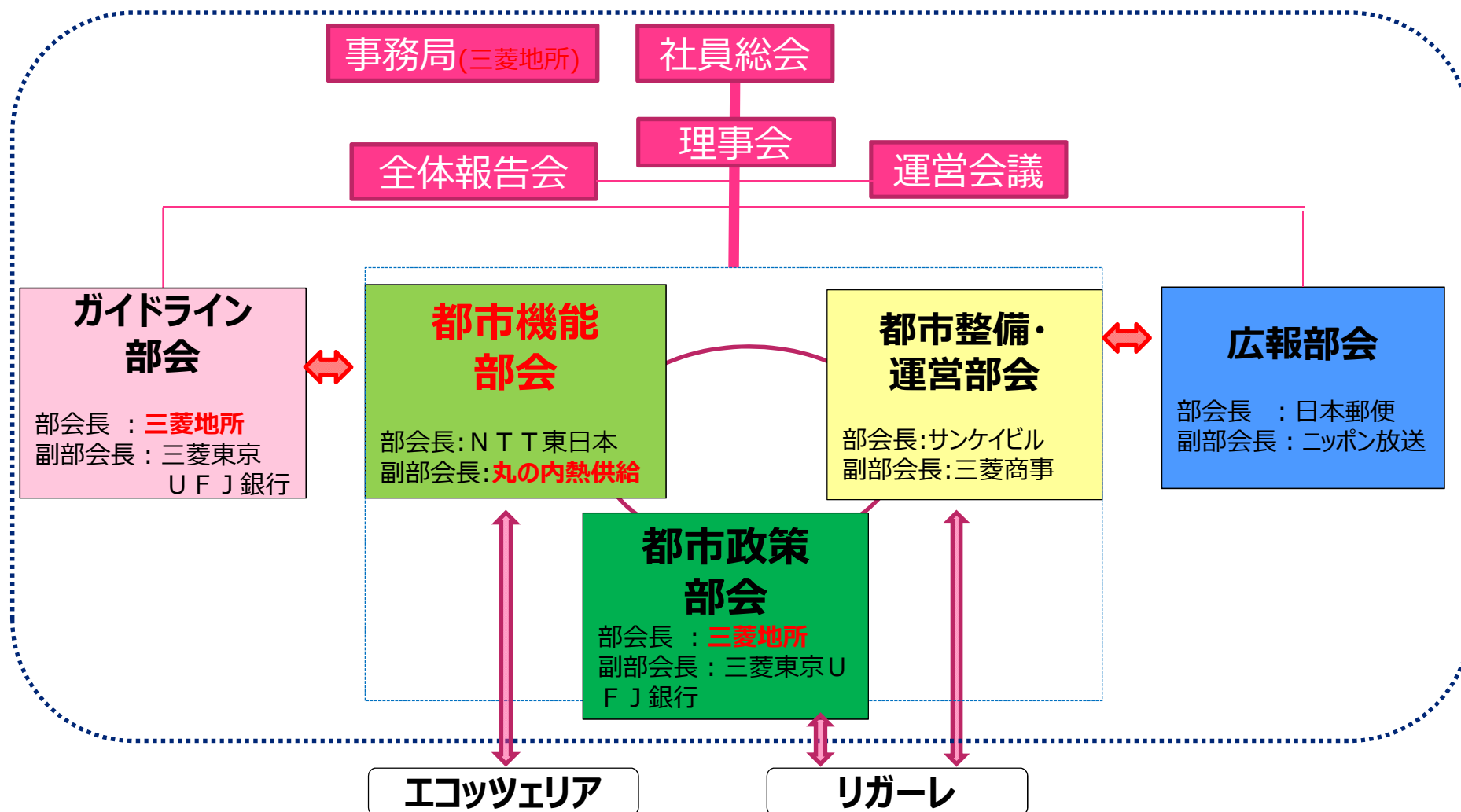
・空と土プロジェクト

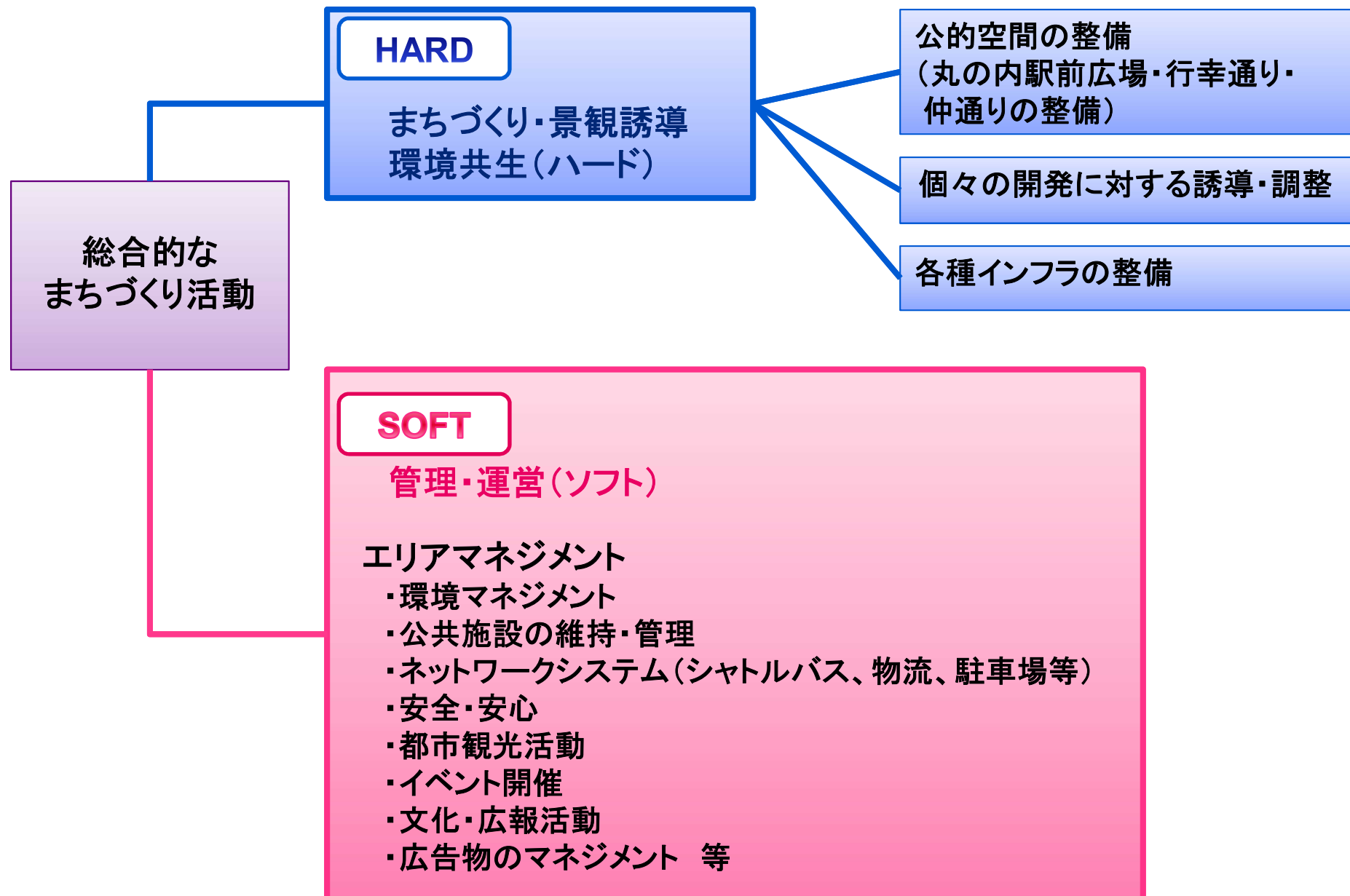
(話題3) 丸の内朝大学



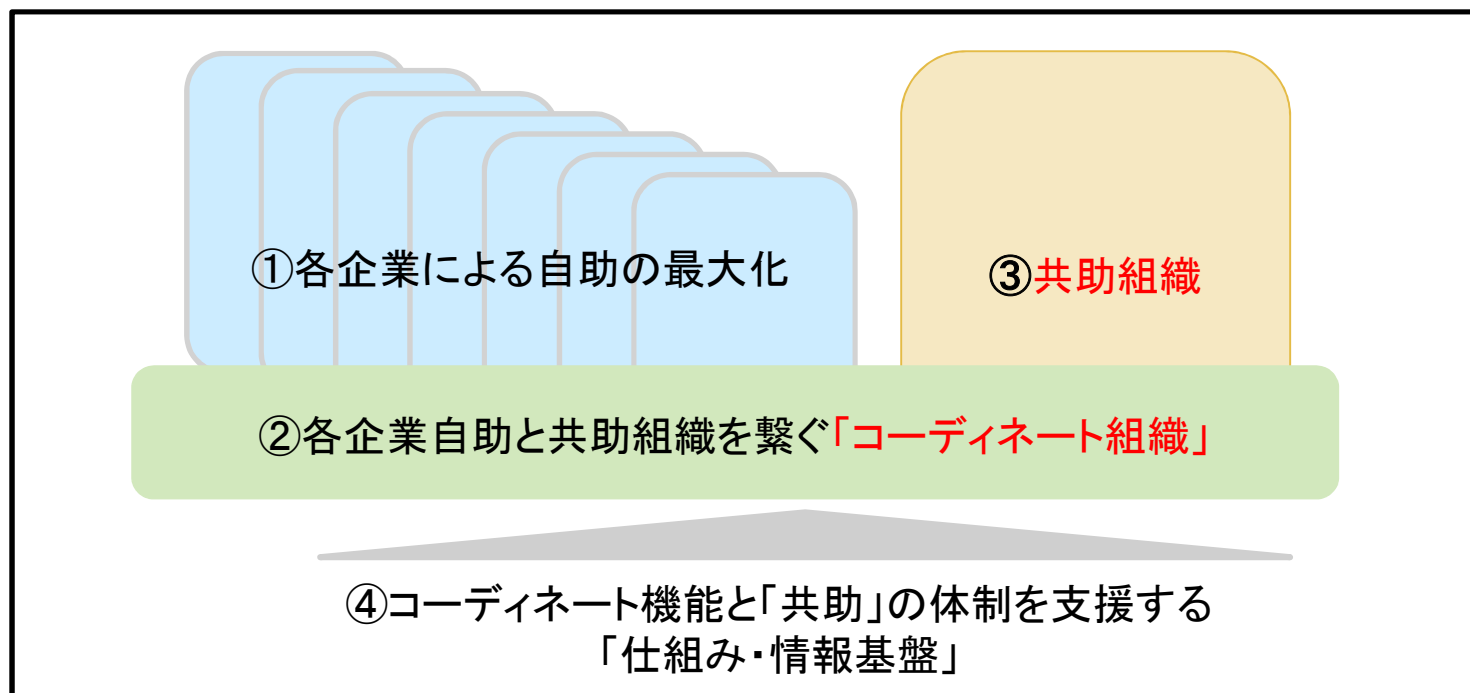
- 区域面積 : 約120ha - 指定容積率 : 1300% (一部700%、900%、1200%)
- 建物棟数 : 約100棟 - 就業人口 : 約28万人
- 建物延床面積 : 約800ha - 企業数 : 約4,300社
- 上場企業数 : 97社 (連結売上高 : 約130兆円、日本の総売上高の約9%)
- 駅乗車人員 : 約152万人 (28路線13駅)

- ・大丸有地区の地権者によって1988年に設立（現在は会員86者）
- ・企業、団体及び行政等のまちづくりに係る主体との連携を図り、都市空間の適切かつ効率的な開発、利活用等を通じたまちづくりを展開することにより、当地区の付加価値を高め、東京の都心としての持続的な発展に寄与することを目的









- ①各企業の「自助」を最大限引き出すことを前提とする。
- ②拡張された「自助」※1をコーディネートすることによって全体としての対応力を確保する。
⇒各企業自助と共助組織を繋ぐ「コーディネート組織」
- ③拡張された「自助」ですべてを埋めることが難しい場合に備えた「共助組織」※2を構築する。
⇒「各企業自助」で及ばない範囲をカバーする「共助組織」
- ④コーディネート機能と「共助」の体制を支援する「仕組み・情報基盤」を構築する。

※1 拡張された「自助」: 各企業が少しずつ「自助エリア」から滲み出した範囲。自助エリア拡大版

※2 企業間の「共助組織」による災害時対応を行うにあたり、参加者には「免責規定」が適用されることを前提条件とする。

プロジェクトのはじまり

2008年4月に開催された「NPO法人えがおつなげて」の限界集落ツアーに、地域社会との共生に取り組むCSR活動を検討していた三菱地所のCSR推進部のメンバーが参加し、山梨県北杜市の素晴らしい自然環境、温泉などの観光資源、パートナーとなる「えがおつなげて」の活動に共感。7月に再訪して、5ヶ所の候補地のうち、増富地域を選定した。

空と土プロジェクトの目的

都市部

都市部が抱える課題

希薄な人間関係、コミュニケーション不足に伴う、
ストレス、孤立感の増大

自然と接することによる心と体の健康・ワークライフ
バランスの追求、自然保護・環境保全に対する意識啓発

グループ会社社員・家族
丸の内エリアの就業者
住宅事業のお客様
丸の内のシェフ

参加
協力

三菱地所
グループ

〈 開墾・田植え・森林体験ツアー 〉

〈 農業に頼らない酒米づくり 〉

〈 山梨県産材の活用 〉

〈 山梨の農産物を使ったイベント 〉

連携

農山村

(山梨県北杜市)

農山村が抱える課題

高齢化、離農、行政サービスの低下による
地域の崩壊(限界集落)

地域の自立、誇り、活性化

地域住民
木材生産者
自治体
地元シェフ

参加
協力

NPO法人
えがお
つなげて

「都市と農山村が、お互い元気になる社会」へ

三菱地所グループ／社会貢献活動基本方針（2008年4月に策定）

1. 社会的課題の解決と自らの成長

良き企業市民として社会的課題の解決を目指し、活動を通して自らの成長をはかります。

2. 三菱地所グループらしい活動の展開

事業領域の内外において、経営資源を生かした、三菱地所グループらしい特色ある社会貢献活動を展開します。

3. 社会との連携

対等、信頼、対話を基本として、さまざまな団体と連携し、透明でフェアな活動に努めます。

「地域社会との共生」「文化・芸術支援」「環境保全」「社会福祉」を重点分野として取り組みます。

4. 重点分野

「地域社会との共生」「文化・芸術支援」「環境保全」「社会福祉」を重点分野として取り組みます。

「本業に生かすCSR」

本業につながっているCSR活動は長続きする。

事業にもプラスになり

同時に地域活性化にもプラスになる

まさにウイン・ウインの関係が構築されつつあることを実感しています。

新たな共通価値の創造

(CSV)

Creating Shared Value



『三菱地所グループの森』 構想について

2017/6/6
環境・CSR推進部

■経緯

- ・三菱地所は、環境保全、森林体験、社員研修などを目的とした「企業の森」活動を開始すべく、この数年、活動場所の選定を行ってきた。
- ・三菱地所のCSR活動：空と土プロジェクトにおいてご縁のある北杜市内での「三菱地所の森」構想に、民有林所有者、林業事業者の賛同を得られる可能性が出てきた。

■構想の骨子

1. 北杜市内（明野町、高根町）にてFSC認証林を管理し、林業を施業している藤原造林が、北杜市内民有林（管理放棄林）を、持続的に利用可能な森林に転換し、森林経営計画（30ha以上）を策定し、林業経営を行う。将来的には、森林認証（FSC）を目指す。尚、藤原造林は、山林所有者に対して、山林利用に応じた対価を支払う。
 2. 藤原造林は、三菱地所、えがおつなげてと連携し、三菱地所グループは、社員研修、CSR活動の場として、この森林を利用する。
 3. 藤原造林は、既存の流通ルートを活用し、三菱地所グループへの木材供給を行なう。
- 上記をもって、北杜市の環境と経済に貢献すると共に、三菱地所グループの事業の持続可能性向上を目指す。



藤原造林

- ・森林（カラマツ等）を受託管理
- ・森林体験の指導

北杜市内民有林（黒森など）

- ・間伐等の管理を委託
- ・研修、ツアーの実施場所

えがおつなげて連携

三菱地所・三菱地所住宅加工センター
・三菱地所ホーム・三菱地所レジデンス など

- ・社員向け森林体験研修、・顧客向けツアー、
- ・マンション内装材、戸建構造用合板等（FSC）の利用拡大 など

2009年4月開校、大手町・丸の内・有楽町エリア全体をキャンパスに、朝7時台から開講する市民大学。持続可能なまちづくりを行う当エリアから、省エネルギー化、低炭素化につながる朝方ライフスタイルへのシフトを提案し、環境配慮型行動の定着を図っています。

3ヶ月を1学期とし、春・夏・秋の3期開講する講座には年間でのべ約2,500人が参加。各講座の開発のコンセプトは「丸の内」「朝に」だけしか体験できないもの。30代のビジネスパーソンを中心に、年齢、性別、職業、勤務地も様々な人が学んでいます。

課題解決型の講座が多いことが特長で、地域や都市、社会全体の課題解決に取り組む活動は講座の枠を超え、自主的なソーシャルプロジェクトとして発展し、朝の定期的な学びの場を通して醸成した都市型コミュニティが、世の中にグッドシフトを起こしています。



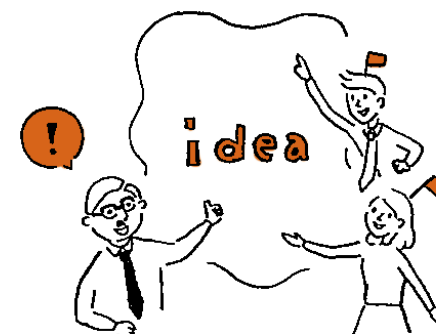
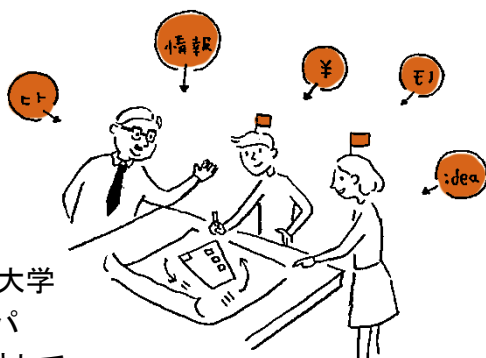
RELATION

仕事ともプライベートとも違うつながりの中で、もっと楽しい世の中のためにアクションを起こしたいという人が多く学ぶ朝大学コミュニティには、様々な情報や人などが集まってきます。



COMMUNICATION

2009年性別も年齢も肩書きも様々な受講生が集まる朝大学 忙しい毎日の中で、早起きをしてまで学ぼうとする人のパワーは朝大学をいわゆる“朝活”の場から、学びを起点としてコミュニティに発展させました。



SOLUTION

社会とつながり、企業や行政など外部の人々と協力しながら自由な発想と行動力で課題を解決するアイデアを生み出していきます。



INFORMATION

出勤前の朝1時間に約30の講座を開講し社会人に学ぶきっかけを提供しています。

SOCIAL GOOD

社会の課題と向き合う学びのコミュニティが、様々な人々とつながり、創発することでグットアイデアがあふれる社会になります。

単なる朝活ではなく、自己表現の場をみつきたい、何かアクションを起こしたい、地域に貢献したいなど、問題意識をもって受講されている方が多いのが特徴です。

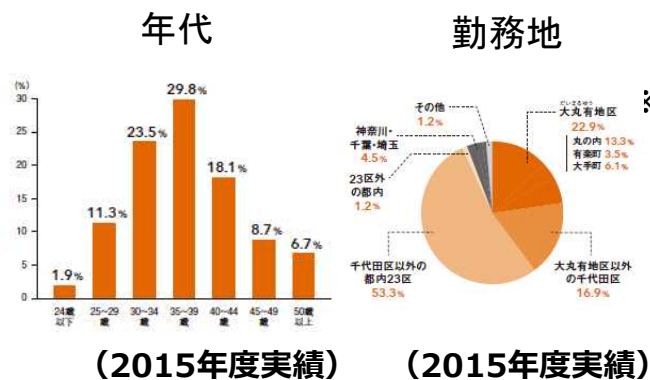


受講生データ

開講7年で
受講生数はのべ約 **15,000**
人以上

年間受講生数 約 **2,200** 人
(2015年度実績)

男女比 約 **3:7**
(男:女)



※大丸有(だいまるゆう)＝大手町・丸の内・有楽町エリアのこと

丸の内朝大学のキャンパスは、大手町・丸の内・有楽町の、通称大丸有エリア。
東京だけで活動する市民大学と思われるかもしれませんが、実はそうでもありません。
地域と一緒に、学び、楽しむ。広がる朝大学の活動を紹介します。

地域と一緒に、学び、楽しむ。広がる明大学の活動を紹介します。



財源を確保し、土壌改良を兼ねた数寄
世流の「数寄・数寄」。草花やわい
のほかに、ここから始めると土壌を
改良し、丸の行で「数寄」として
のGWで土壌改良の効果を上げ、
高品質の土壌改良、数寄の土壌改良
スプレー・スプレー・スプレーで
スプレー・スプレー・スプレーで



音楽界見聞の何道道りまで手から受けるオリス。全米の音楽雑誌に、通り手高きとなる足の運び、手の動かし方を伝へ、歌やダンスの練習のりえんにあわせて読者練習を繰り返します。東京丸の内は通り手高き町町町町町などに参りて成事を果た、本城島で77年7月20日、2013・14・15年



神歌をひもとくことが日本文化や日本人の精神を伝えるだけでなく、2012年の「世界遺産」1000年を記念し、2013年には鳥居清涼の出生を契機と上げました。古事記の内容を解説する図書のあと、神々の国・出雲に戸建てで対峙し、出雲大社、八雲御神立などを巡りました。2011年夏。



知っているように知らない日本の地理を留学で学んだ後、旅に出る。大人の新年旅行で「タラス」(実際は2012年)に上る機運を、13年に高野聖参りを取り上げる。たぶん、なるほどでなく、旅民の人と交遊して、豊饒な旅路の仕事を学んでみると、旅の時間を楽しんだ。



本人の生きた万や幾多の物質にあるの
や家族を考へ、やに生かせる人間も考
へ、やに生かせる生きた万も考へるこ
ろに、2012-13年は、多くの先人が創
始した研究結果、そのおかげでとっ
ちある世界にあるWで記して研究を推
進したり、価値観を問いたり、武士
道やのびた。



虫媒の伝播と繁殖を妨げるアイブアを考える研究が、世帯に普及する新技術のツボのため、製造業からの依頼を受けるアイブアを考案した。製造業が同技術を応用したアイブアや、商業施設の接客を強化したツアーを企画、2013、14年度、2014年度はインターナショナル・施設管理ツアージャパンの



その中でも、音楽を得意とするアイブ
アを考える異国風カラス。二重奏で
は、高倉美奈や佐々木アツコと二重
奏でアイブアが披露された。行進や
踊りの曲も多かった。カラスは
後にプロジェクトとして成長した事
も、2011年・13年春、当13年は地盤
プロジェクト・カラス・プロジェクト



花を飾った建築デザインを学ぶから
ス。建築設計のノウハウによるデザインや
自分でできる演出方法を学んだ後、
F&Eでは、花の知識をいっしょに使用意
図通りの花を配置・装飾が出来る。花
装と交差しながら、花装と花装が
いっしょに花装を製作しました。
2015年秋



林林や山岳地区、国営園らしへの関心が高まるなか、ケルスでは紅葉情報提供方法もフェールFに、実際に国営園らしも体験、独自の入や体験者との交流を促進して、来客の滞在率を上げようとしている。紅葉が自給自足の林林や山岳地区を活性化して推進しました。2016年春



新選組の活躍が知られるから、山手で遊戯となる遊米や新選の気風武士なども呼んで、フォーレドワーフで新選を語れ。雲づきの旗幟山手や、花江の人々の気風を行いした。遊米「新選組遊人傳説」は新選組で、山手遊でせよせん、新選組山手には、のびて明治初期、20代、14年頃。



貴重物の消費量が減少するなか、南に開かれた同市の貸金店が急増しているという。なかでも増えたのは、水産庁職員や漁師、お節など各業を取り替く様々な人々をゲストに誘った豪華なおと、そして日本酒や高級海産物を振る舞い、漁師の仕事を手伝い、漁師の暮らしを体験した。2012年現在。



東京の朝日新聞のテーマに、水辺とはな
づくりについて考えるから、自由多岐
のクリエイティブな取り組みから、水と
水辺が持つ価値を発見しました。PW
では東京から水の上へと響く、朝日新
聞の体験、東京河では朝日新聞を盛り
上げる企画を企画しました。2016年
実施。



- 凡例



地域

メリット

観光客ではないビジネスパーソンとともに、観光地づくりではなく関係地づくりができる

つなぐ、新しい関係をつくる

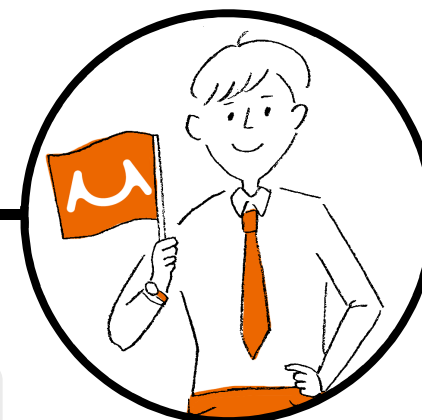
自治体× 丸の内

メリット

プロセス自体が取り組みとしての地域のブラン
ド発信になる

メリット

丸の内に、ビジネス街と
違う役割が生まれる



受講生

メリット

- ・人の役に立つ
- ・旅ができる
- ・第二の故郷ができる



朝大学の協賛は、受講生に地域の魅力を伝えるだけではありません。
ビジネススキルと意識が高い受講生と、課題を抱える地域をつなぐことで、
課題を解決するアイデアやコミュニティを生み、
新しい関係をつくります。

2010年夏学期の事例 (富山市・南砺市・立山町)

今は東京で働いているけど、自分の生まれ故郷をもっと盛り上げられないだろうか？ いずれは地元と東京を結ぶ仕事がしたい！ 東京にいらながらも日本の地域を元気にすることを手伝いたい！

本クラスは、実際に活躍する地域プロデューサーをゲストに招きます。様々な地域のプロデュース事例を取り上げながらその手法を学び、実際に地域が抱えている問題を解決していく実践型のクラスです。



2014年夏学期で開催

いま日本では、インバウンド(外国人の訪日旅行)の誘致が注目されています。各地域の魅力をどのように発掘し、発信すればよいか。国際的な視点を持った地域の魅力発信について探っていきます。実際に活躍する地域プロデューサーから手法を学び、インバウンドを増やす策を考えることで、地域が抱えている問題を解決していく実践型のクラスです。今回のテーマ地域は能登空港の利用率向上を掲げる石川県・能登です。

http://asadaigaku.jp/course/index.cgi?c=zoom&pk=275&turn_pk=12



地域学部

毎週水曜日 7:15-8:15



国際的な地域プロデューサークラス ～地域をインバウンドの視点でデザイン～

いま日本では、インバウンド(外国人の訪日旅行)の誘致が注目されています。各地域の魅力をどのように発掘し、発信すればよいか。国際的な視点を持った地域の魅力発信について探っていきます。実際に活躍する地域プロデューサーから手法を学び、インバウンドを増やす策を考えることで、地域が抱えている問題を解決していく実践型のクラスです。今回のテーマ地域は能登空港の利用率向上を掲げる石川県・能登です。

講師：古田祐希、ジャスティン・ボッツ

日程：全8回(60分) 毎週水曜日 7:15-8:15

学費：39,000円(税込)

定員：40名

申込みは終了しました